

	～21世紀をたくましく切り拓く人間の育成をめざして～
学校教育目標	<p>① 一人ひとりの個性・能力の一層の伸長。</p> <p>② 自分で考えることができ、意見を積極的に主張できる人間の育成。</p> <p>③ 広い視野と「千萬人」の気概を備え、国際社会・地域社会で活躍できるリーダーの育成。</p> <p>④ SSHの成果をふまえ、先進的な取組により、本校の伝統ある理科・数学教育の発展を図る。将来有為な科学技術系人材の育成をめざすとともに、文系分野にすすむ生徒にも、科学・技術を人間・社会との関係まで見通しながら自ら判断し、行動できるための科学的要素を育む。</p>
今年度重点目標	<p>① SSHの諸活動（高校）やアカデミック・コミュニケーション（中学）を軸に、課題発見能力の育成を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを追究する授業改善をより一層進める。</p> <p>② 生徒それぞれの進路希望実現のため、学習指導、キャリア教育等の更なる充実を図る。また、特に高校において、高大接続改革に向けた研究や実践を進める。</p> <p>③ SC・SSWも活用しながら相談支援態勢を充実させ、不登校や学校不適応の未然防止を目指す。</p> <p>④ 学校を内外に開き、生徒・保護者への情報発信に努める。また、いじめや体罰のない学校づくりをすすめ、より一層地域から信頼される学校を目指す。</p>

※評価(達成度) 1:不十分 ～ 5:十分達成された

教育目標	取組	評価の観点	達成度 (5段階)	意見(本年度の取組・次年度への課題等) ○成果、◆課題、■改善策・向上策	(参考数値)
課題発見能力の育成 および、主体的・対話的で深い学びを追求する授業改善	①授業やテストにおいて、情報分析から課題発見を促すような発問や、答えが一つではない発問を多くし、考察、発表も行い、討論するような機会を多く設ける。	①授業やテストにおいて、課題発見を促すような発問、答えが一つではない発問を多く取り入れたか。	4	○定期考査、3年校内模試等で、意識的に発展的な思考力や表現力を問う問題をより多く出題した。 ○電子黒板等のICT機器の利用が更に促進され、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の取り組みが各教科で行われた。 ◆ICTのより効果的な活用や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた更なる授業研究が必要。	・学びの基礎診断 ・試験成績(模試・センター試験) ・生徒による授業評価
	②問題発見、課題研究などの授業や、その他のSSH諸活動が、生徒が自ら問題を発見し探究する機会となるように環境を整える。	②生徒が調べ、考え、討論できる環境を整え提供できたか。	4	○テーマ選びから探究、発表まで生徒が行う取組を行い、目標とする環境を整えることができた。 ◆■興味がある対象の調査に留まらず、論証を行う発表が増えるようにしたい。過去の例の提示や、まとめ方に条件を設定することを考えたい。	
	③自ら考えて課題を見つけ出し改善していくクラブ活動・学友会活動の実現。そのための顧問の助言や指導。	③クラブ活動の時間、場所を保障し、自ら考えられるようになる指導ができたか。	4	○部活動の活動指針に則り、各部で改善をはかった。 ○自ら考えて行動できる機会が増えるように、本部役員会の定期的開催、委員会活動の活性化をはかった。さらに活発な活動ができるように援助していきたい。	
生徒それぞれの進路希望実現のため、学習指導、キャリア教育等の更なる充実および高大接続改革に向けた研究・実践	①社会的・職業的に自立した人間の育成を目指し、合同HR、講演会等により、進路意識の向上を図る。また、進路研究への支援を行い、キャリア教育を推進する。	①進路係と各学年間の連携が十分に図れたか。生徒の進路意識を向上させ、高い進路目標を持たせることができたか。	4	○係会を計画的に開き、各学年や中高の情報交換と連携を図った。 ○学年による指導のばらつきが出ないような、緊密な連携を図った。 ■学校生活の様々な活動がキャリア教育であるという認識をさらに共有できるよう、さらに連携を深めたい。	・大学合格状況 ・実力テスト及び模試の検討回数 ・生徒意識調査 ・学習時間調査
	②整理テスト、定期考査、校内模試、校外模試の分析をもとに、毎日の家庭学習、土曜講座、テスト前後の学習の質と量の充実を図る。	②各種テスト後の分析を行い、その後の学習指導に分析結果を活かすことができたか。	4	○1・2年次の学習習慣の大切さを理解し、学習時間確保と効果的な活用を認識する生徒がより増えた。 ○学習合宿では切磋琢磨しながら長時間の学習を経験できた。また、先輩や外部講師から助言を自分のものにしてと努めた。 ◆習熟度別講座編成のあり方の更なる検討が必要。	
	③学校における諸活動から課題を見出して探究的取組を行う。	③生徒の科学技術に対する理解が深まり、課題の発見と探究に対する意欲が向上したか。	3	○2学年「問題発見」における生徒の研究テーマに、授業で扱った題材が基になっているテーマが見られた。 ◆■学校の諸活動から出発した探究がさらに増えるよう、授業などで問いかけの機会を増やしたい。	
相談支援態勢の充実と不登校・学校不適応の未然防止およびいじめのない学校づくり	①生徒の立場に立って、心身の状態を深く洞察しつつ、成長を支援するための指導を行う。	①生徒の状況をつぶさに観察し、生徒の相談に十分に対応できたか。	4	○担任・学年会を通して、個々の生徒の状況を日常的に把握している。 ◆SC・SSWの配置時間の増加も実現し、連携も深めてきたが、複雑化する個別の事案への対応には、さらに時間をかけて臨む必要がある。	・生活実態調査
	②学校生活における全般的なモラルの向上に取り組む。	②生徒の自主性・自立性に寄与する指導ができたか。	3	○今年度も、現金盗難、通信モラルの低下に頭を抱える一年になってしまった。 ◆基本的な善悪の判断を向上させる機会を工夫しなければならない。	
	③狭い枠組みを抜け出し、地域や社会を見通すことのできる態度を育成する。	③地域社会の人々、特に周辺住民から応援されるような学校になっているか。	3	◆自転車ばかりではなく、登校時の歩道の使い方も近隣から注意を受けている。クラスに交通安全通信等を配布し、徹底を図ってはいるが、さらに注意喚起を継続する必要がある。	
	④いじめを絶対に許さない校風を維持する。	④いじめ防止のために、機会をとらえての指導ができたか。	4	○無記名のいじめ防止アンケートを実施、分析、検討し、クラス担任の先生を中心にいじめ問題把握を援助した。 ■課外活動や通信モラルの面からも生徒の実態把握を継続していく。	
		④いじめの早期発見につながる相談体制が十分に機能していたか。	3	○アンケートから、仮にいじめがあった場合にも誰とも相談しない生徒の割合が昨年に比べて微減したことがわかる。 ■今年度も複数回のアンケート実施できなかった。	
開かれた学校づくり	①ホームページのリニューアルを行って、更新回数を増やし使いやすいウェブサイトの運営を目指す。	①ウェブサイトによる情報発信は充実していたか。	4	○昨年度リニューアルしたホームページを今年度から実運用を始めた。レイアウト等刷新した。 ■校内では、生徒昇降口に大型モニターを設置し、日々の日程、連絡事項など常に発信できた。	・ウェブサイト更新回数月2回程度 ・広報紙発行回数年2回 ・授業公開来校者数5校
	②開かれた学校づくりを目指し、授業公開などを積極的に活用し保護者、地域、中学生に清陵高校を理解してもらおう。「清水ヶ丘便り」学校案内、パンフレットを活用する。	②本校の教育活動を保護者、中学校、地域住民等に十分に伝えられたか。	4	○「清水ヶ丘便り」「学校案内」を持参し、中学校訪問を行った。変わりつつある清陵高校をPRし、理解を頂いた。 ◆台風の影響で授業公開が中止となり、代替え企画が日程の関係で行うことができなかったが、見学希望者には個別に対応することができた。	